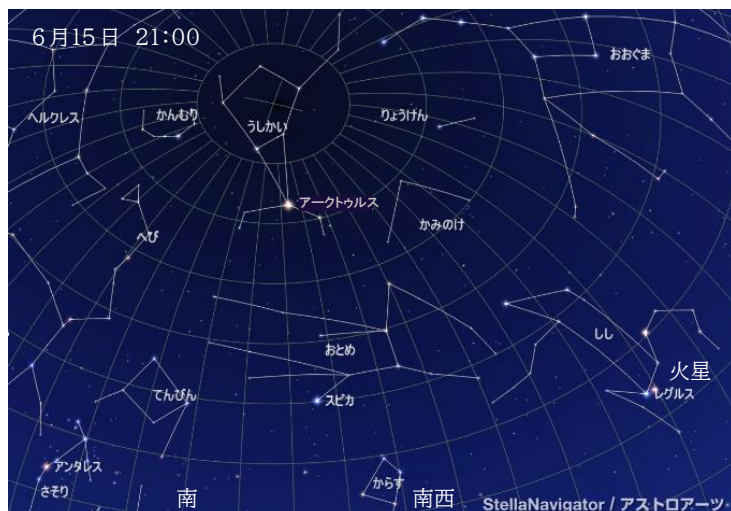


★今月の星もよう★

梅雨入りし晴れの日が少なくなる6月。6月の終わりで7月にかけては日没が最も遅くなる季節です。貴重な晴れた夜にはぜひ星空を見上げてみましょう。

しし座の1等星レグルスの近くに見えている火星は、1月に地球に最接近した後、地球から遠ざかるにつれて暗くなり、現在はレグルスと同じくらいの1.4等の明るさで輝いています。天頂付近には1等星アークトゥルスとネクタイの形が特徴的なうしかい座が見えています。アークトゥルスはギリシャ語で「熊の番人」という意味です。うしかい座の「うしかい」が誰なのかは様々な説がありますが、ギリシャ神話の天空を支える巨人アトラスだという説が有名です。うしかい座の隣、南の空の高いところに見えているかんむり座は、半円を描くように星が並んでいる小さくて可愛い星座です。ギリシャ神話では、酒の神ディオニュソスがクレタ島の王女アリアドネに贈った冠とされています。



★月と土星、海王星が接近★

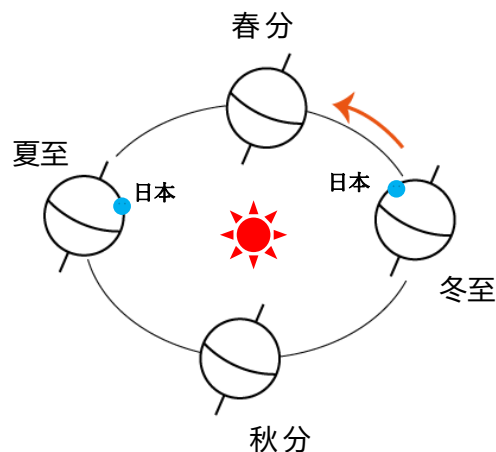
19日の未明に、東南東の空で月と土星が接近する様子を見ることができます。倍率7倍ほどの双眼鏡では月と土星を同時に見ることができるでしょう。今年の3月24日と5月7日に環の消失が起きた土星は、環の傾きがやや大きくなったものの、まだ環がほとんど見えない状態です。下弦の月と環の見えない土星が並ぶ姿をぜひ観察してみてください。

さらに、土星の左側には海王星がひっそりと光っており、7月いっぱいまでは1度以内の距離にあります。海王星は太陽から最も遠い惑星で、7.9等と肉眼では見えない明るさですが、双眼鏡や望遠鏡を使って土星を頼りに探してみたいかがでしょうか。



★6月21日は昼間が一番長い日★

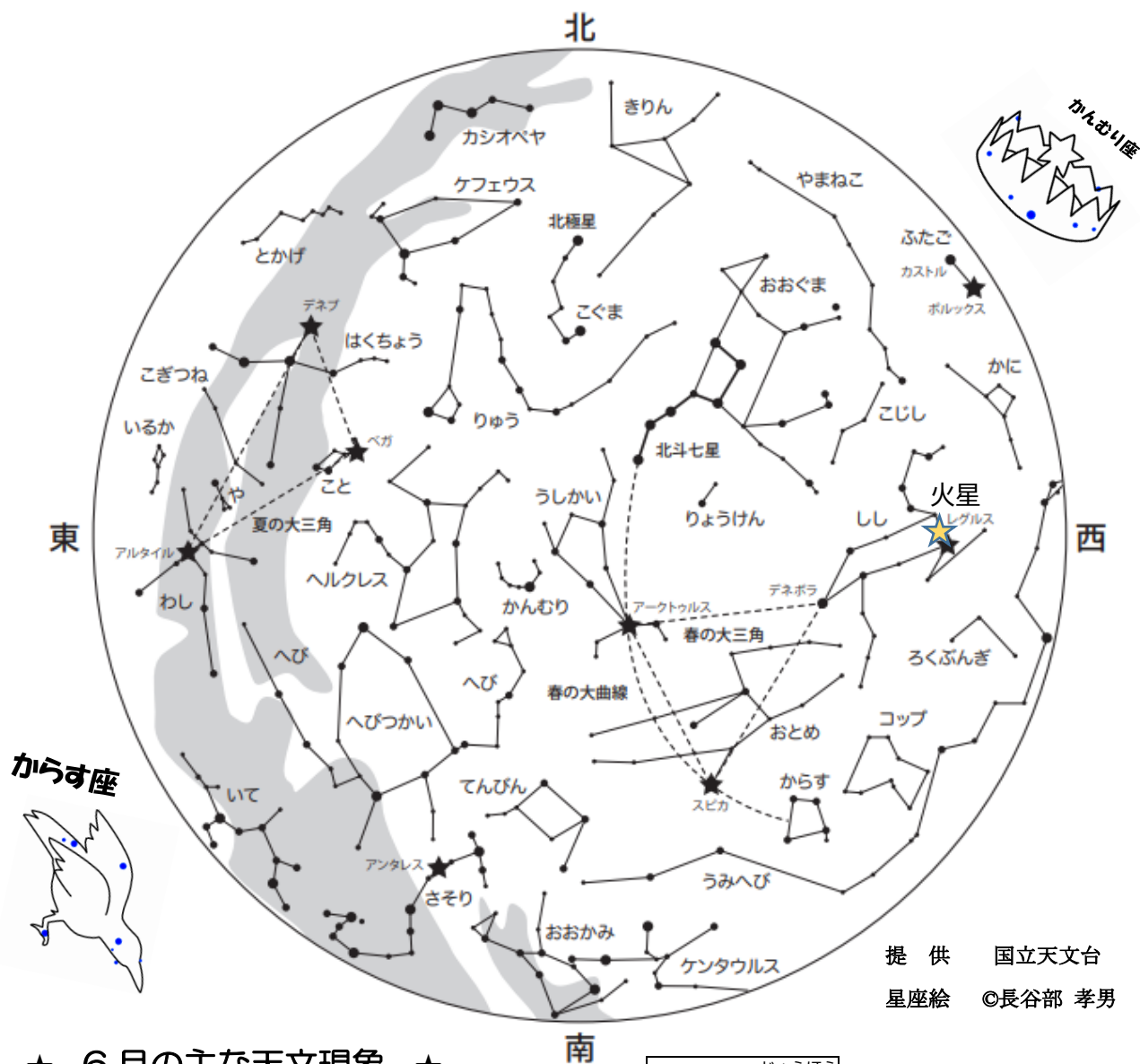
今年の夏至は6月21日。夏至は1年のうちで最も昼間が長い日です。それぞれの場所において太陽の高さが一番高くなるのは太陽が南中する(真南に来る)時であり、夏至の日には南中高度(真南に来た時の地面との角度)が最も高くなります。実際に夏至の日に出て自分の影を見てみると、影が非常に短く足元にしか見られないことがわかります。太陽が高く昇るほど空を横断する時間が長くなるため、昼間が長くなるのです。逆に、冬至の日には南中高度が最も低いため、昼間が最も短くなります。また、北半球が夏至の時は南半球では冬至になり、北半球が冬至の時は南半球では夏至になります。夏至と冬至の中間である春分と秋分は、昼と夜の長さがほぼ同じです。



☆プラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください

☆プラネタリウムのお休み 6/2(月)、9(月)、16(月)、18(水)、23(月)、30(月)

6月中旬午後9時頃の星空



提供 国立天文台
星座絵 ©長谷部 孝男

★ 6月の主な天文現象 ★

- 3日(火) ● 上弦
- 11日(水) ● 満月 (ストロベリームーン)
- 17日(火) 火星とレグルスが接近
- 19日(木) 月と土星・海王星が接近
- 下弦
- 21日(土) 夏至
- 25日(水) ● 新月
- 30日(月) 月と火星が接近

イベント情報

(中央図書館2階事務室で受付)

★季節の星空探訪「星座の履歴書」

6/7(土) 15:00～

(講師:浅田英夫氏)チケット販売中

★とよかわ星空観望会

7/12(土) 19:30～21:00

赤塚山公園わくわくパーク(講師:中島健次氏)

申込:6/12(木)～6/15(日)

※応募多数の場合は抽選

★プラネタリウムファミリーコンサート

7/6(日) ①10:30～②14:00～(演奏:むさしの会)

チケット販売:6/14(土)～